# ご近所のお医者さん

718

ごとう内科クリニック院長　後藤浩之さん＝大阪市都島区

## 咳喘息の特徴と治療法

# 長引く症状に要注意

「咳喘息（せきぜんそく）」という病気をご存じでしょうか。咳喘息は気道という口から肺までの空気の通り道が過敏な状態になり、咳が長引く病気です。咳以外の症状がほとんどないことが特徴です。気道が過敏になる原因は不明とされており、他人にうつる病気ではありません。

「気管支喘息」も似たような病気ですが、咳喘息は気管支喘息のように「ヒューヒュー」「ゼーゼー」と鳴る喘鳴や気道の狭さく、呼吸困難も基本的に見られません。また、気管支喘息は症状がなくても定期的な治療が必要ですが、咳喘息は症状が治まれば治療を終了できることがあります。

治療法については、気道を広げて呼吸をしやすくする気管支拡張薬の服薬が中心です。吸入薬は内服や貼り薬に比べて、より効果的で副作用も少ないです。抗アレルギー剤などを併用する場合もあります。

しかし、これらの治療薬は即効性がなく、効果が出るまでに数週間かかることも珍しくありません。効果が出ても、自己判断で治療を終了しないことが重要です。一時的に咳が治まったからといって治療をやめてしまうと、再度気道粘膜が炎症をおこし、より過敏になります。治療と再発を繰り返すと、気道の平滑筋が厚くなり、気道が狭くなっていきます。それにより、咳喘息が気管支喘息に移行するケースもありますので注意が必要です。

咳喘息を明確に診断する検査方法は確立されていません。数週間以上続く咳や、発熱を伴わない発作的な咳などの場合は咳喘息を疑い、聴診、胸部レントゲン、血液検査などで、ほかの疾患と区別します。その上で、気管支拡張薬が有効であれば、咳喘息と診断します。そのほか、「呼気NO濃度」という気管支のアレルギー状態を見る検査などを参考にします。

多くの場合、ウイルス感染がきっかけとなり発症します。早めの治療が大切ですので、咳が1週間以上続く時は医療機関での受診をお勧めします。医師の指示に従って、治療を行ってください。

（府医師会理事）